

国等の動向から

- ◎学校教育法…学力の要素=「基礎的・基本的な知識及び技能」「知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」
- ◎学調等の結果…子どもの「思考力・判断力・表現力」、「主体的な学習態度」に課題
- ◎学習指導要領…「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」の重視 「主体的、対話的で深い学び」を視点とした授業改善

課題設定の理由

- ◎学校教育目標…しなやかでたくましい心と体を持ち、未来に飛躍する自立した生徒の育成
主体的に学び続ける生徒〈知〉・しなやかな心を持つ生徒〈徳〉・ねばり強い体力のある生徒〈体〉
- ◎研究内容…基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るとともに、それらを活用して思考力・判断力・表現力等を育成するための指導法の研究
「思考力・判断力・表現力等を育てる6つの学習活動と学習形態」を授業展開の中に明確に位置づけ、問題解決学習の過程を重視することで充実した言語活動が実践できるように工夫

本校の取り組みから

研究主題

自ら考え、課題を解決できる生徒の育成～自力解決型の授業を目指して～

生徒自らが主体的（意欲）に、既習事項（体験活動等）を活用し、よりよく課題を解決することのできる資質・能力を育むための授業改善が必要である。そのために全ての教科において「自力解決型」の授業展開を構想し、教育的今日課題の解決に向けた取組を図る。

研究のねらい

全ての教科において、「主体的、対話的で深い学び」の充実のために習得・活用・探究のバランスを工夫し、知識の理解の質を高めるとともに、学習の効果を高める授業を構想することで授業改善を図り、「自ら考え、課題を解決できる生徒」を育成する。

研究の内容の概要

研究の内容

ア 研究主題の定義

- 【自ら考え、課題が解決できる生徒】…既習事項（体験活動や経験）の知識や技能（習得）を活用しながら、よりよく課題を解決する（活用）するとともに、それを総合的な学習の時間等における教科等を横断した問題解決的な学習や「探究」活動に生かす能力をもつ生徒
→課題解決に向けた見通しをもち、筋道の通った考え方ができる生徒 →他者との関わり合いを通し自分の考えを深め、広げられる生徒
- 【自力解決型の授業】…学習過程の基本形を「課題をつかむ場面」、「解決する場面」、「確認する場面」と設定し、生徒に課題解決の見通しと自分の考えをもたせ、意欲的な自力解決を促すとともに、他者との交流により考えを深め広げさせることをねらいとした授業

イ 自力解決型の授業構想 「自力解決型（習得・活用・探究）」の各学習過程において、生徒の思考・判断・表現等を活性化させたり深化させたり、主体的に学習に取り組む態度を養う手立てとして授業を構想

- (ア) 「課題をつかむ場面」：課題（ねらい）を的確にとらえさせ、課題解決への見通しをもたせる。（「何のために学ぶのか」という学習の意義を教師と生徒がともに共有する。）
 - a 課題解決への意欲を喚起するようなねらい及び課題提示や課題を把握させるための工夫を行う。
 - b 既習事項やこれまでの体験を振り返らせることで課題解決への見通しをもたせる。
 - c 生徒の気づきや生徒の実態を大切にしたい見通しをもたせ方を工夫する。
- (イ) 「解決する場面」：小集団あるいは全体で、各教科等の「見方・考え方」を働かせながら、既習事項を活用させたり、自分の考えをもたせたりしながら課題を自力解決させる。
 - a 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）を育成するための工夫を行う。
 - b 生徒の考えを引き出すための支援や自分の考えを分かりやすく表現させるための支援を工夫する。
 - c 互いの考えを交流させ、考えを深め、広げさせるため、話し合いが深まるための視点を明確化するとともに、生徒の考えを「つなぐ」ための発問を工夫する。
- (ウ) 「確認する場面」：学習内容を振り返らせることで、「何を理解しているか、何ができるか」、「理解していること・できることをどう使うか」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」について考えを整理させたり、深化させたりする。
 - a 本授業の学習内容を確認するための問題練習等を行う。
 - b 学習のねらいを踏まえた振り返りをノートに記述させたり、発言させたりする。



ウ 研究仮説 ☆自力解決型の授業構想における各学習過程は密接に関連し合っている。
それぞれの過程で「何ができるようになるのか」、「何を学ぶのか」、「どのように学ぶのか」、「何が身に付いたのか」、「どのように支援するのか」等の視点で効果的な手立てを講じる。
互いの考えを交流させ、考えを深め、広げさせるため、各教科の特質を踏まえた言語活動をどのように位置づけ、どのように言語活動を充実させるのかを明確にしながらか授業を構想することで、各学習過程が有機的に関連し合い、研究主題の達成につながっていくと考える。

1 年次 (R 1)

- ◎学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげられるようにするため、「課題をつかむ」場面について研究を進める。
 - ・ねらいや目標の設定の工夫。
 - ・ねらいや目標に合わせた課題設定の工夫。
 - ・自力解決につながる見通しのもたせ方。
 - ・生徒が主体的に学習に取り組むための工夫。
 - ・振り返りの効果的な方法。

2 年次 (R 2)

- ◎「課題をつかむ」場面における見通しのもたせ方について、さらに研究を深める。
 - ・どの生徒も見通しがもてるような支援のあり方。
 - ・より良い課題解決に向けた視点をもたせる支援のあり方。
 - ・「ねらい」設定の工夫
- ◎子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深められるようにするため、「解決する」場面について研究を進める。
 - ・深い学びにつながるための発問の工夫。・学習形態の工夫。
 - ・「自分の考えを持つ・まとめる」活動の工夫・効果的な話し合い活動のあり方。
- ◎「確認する」場面について研究を進める。
 - ・生徒自身が自己の取り組みの状況を把握し、課題に気づき、改善策を講じられるような振り返りの工夫。
 - ・「振り返り」から得られた情報より生徒の実態を把握し、授業改善に役立てること。

研究の計画 (3 年間)

3 年次 (R 3)

- ◎習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を効果的に働かせるための研究を進める。
 - ・学ぶ意欲の高まりについての検証。
 - ・思考力・判断力・表現力の向上についての検証。
 - ・各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせるための手立ての工夫。